

## 里海創生の支援に向けた取組

### ○里海創生支援事業

#### 1. 背景

閉鎖性海域の保全については、著しい汚濁は改善されたものの、水産資源を含む生態系の劣化が進んでいる。このため21世紀環境立国戦略では、藻場、干潟等の保全・再生・創出、水質汚濁対策、持続的な資源管理などを統合的に推進することにより、多様な魚介類等が生息する自然の恵み豊かな「里海」の創生が、今後1、2年で重点的に着手すべき環境政策として明記された。

また、海洋基本計画においても、沿岸域のうち、生物多様性と高い生産性の維持を図るべき海域では海洋環境の保全という観点からも「里海」の考え方が重要であるとされた。

そこで、沿岸生態系の回復、保全に関する先進的な取り組みを実施している海域をモデル海域として選定し、モニタリング調査や地域での取り組みの支援及びその評価を実施し、マニュアルを作成することで国内やアジアを中心とした海外に対して沿岸域の環境保全思想の普及を図り、陸域と沿岸域の一体性について国民の理解を深めるとともに、人間の手で管理がなされることにより生産性が高く豊かな生態系を持つ「里海」の創生を推進し、人間と海が共生する豊かな沿岸環境の実現を目指す。

※参考：21世紀環境立国戦略における「里海」の位置付け

藻場、干潟、サンゴ礁等の保全・再生・創出、閉鎖性海域等の水質汚濁対策、持続的な資源管理などの統合的な取組を推進することにより、多様な魚介類等が生息し、人々がその恵沢を将来にわたり享受できる自然の恵み豊かな豊饒の「里海」の創生を図る。

#### 2. 成果目標

国民の海への関心を高め、閉鎖性海域の環境保全への合意形成を図るとともに、マニュアルを作成することで「里海」づくりを推進し、沿岸域の生物多様性の保全及び水産資源の確保に資する。また、市民参加型の普及啓発活動を通じた地域活性化や、アジア圏の沿岸環境保全にも貢献する。更にモニタリングサイト1000※などの調査とデータの共有化を図り、海域のデータの充実を図る。

#### 3. 事業計画

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
モデル海域への選定基準策定・選定	○		
モデル海域の現地調査		○	
里海づくりマニュアルの作成			○
シンポジウムの開催、広報等の実施	○	○	○
海外への情報発信			○

※本事業計画は請負事業費による実施分も含んでいる。

#### 4. 平成20年度事業費

約25,500千円

- ・21世紀環境立国戦略（豊饒の「里海」の創生）
- ・第三次生物多様性国家戦略、海洋基本計画（「里海」概念の具体化）

**里海創生検討会**  
（平成19年度）

里海に関する論点の再整理、海域環境の保全活動の実践事例の収集により、以下を整理。

- ・里海概念の再整理
- ・里海創生モデル海域の選定基準の在り方
- ・里海創生支援海域における里海創生効果の定量的評価の在り方

**里海創生支援事業**  
（平成20～22年度）

- ・里海創生支援海域における現地調査（里海の定量的な評価）
- ・里海創生モデル海域を選定し、里海づくりマニュアルとして取りまとめ
- ・シンポジウムの開催・海外への発信

沿岸自治体等を巻き込んで実施

課題 生物生息環境の悪化（干潟・藻場の喪失、赤潮や貧酸素水塊の発生）

原因 物質循環の低下（漁業の衰退） 海的环境に対する国民の無関心

陸域と沿岸域の一体性について国民の理解を深めるとともに、人間と海との共生を推進し、人間の手で管理がなされることにより生産性が高く豊かな生態系を持つ「里海」の創生を推進する。

①モデル海域の選定

- ・選定基準の策定
- ・モデル海域の公募、選定（NPO、自治体からの提案）

モニタリングサイト1000などの連携

②モデル海域での現地調査

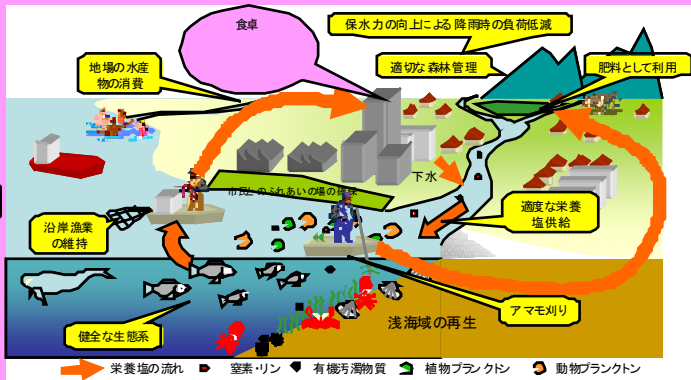
- ・物質循環の調査（水質、生物調査）
- ・普及啓発を兼ねた市民参加型のモニタリングや植林活動等の実施

③里海づくりマニュアルの作成

- ・現地調査結果より作成
- ・他の地域での取り組みの促進

④シンポジウムの開催、広報等の実施

⑤アジアへ「里海」の概念を情報発信



期待される効果

地域活性化

沿岸域の環境保全

アジアへの日本の貢献

生物多様性の保全

水産資源の確保

里海創生による閉鎖性海域の保全・再生

# 里海概念の再整理

## 里海創生検討会

### 「里海(さとうみ)」とは？

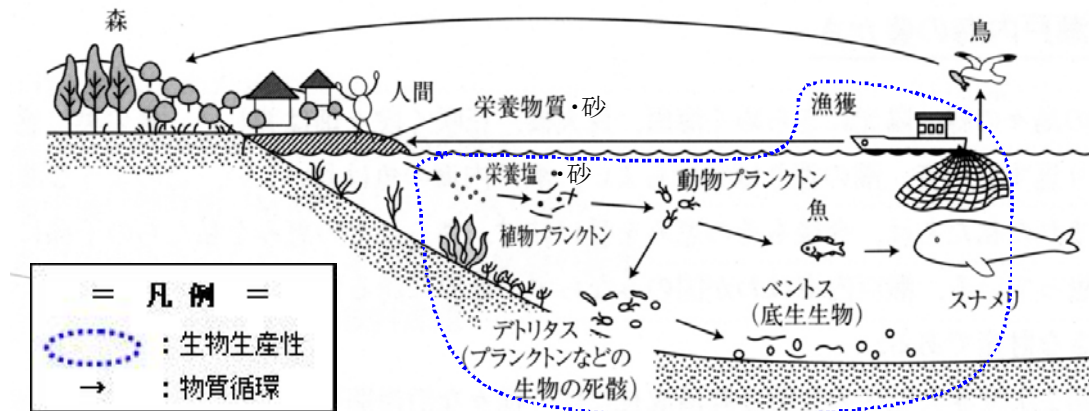
1998年に柳 哲雄教授が「**人手が加わることにより、生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域**」と定義。

里海を実現するためには、  
「**太く・長く・滑らかな物質循環**」の実現が必要。

そのためには

- ①山に発し海に至る**流域全体の環境管理の一体的な実施** と
- ②食物連鎖の高位の魚類も含めた、きちんとした**海洋生物資源管理** が必要

(参考文献)  
柳哲雄著「里海論」

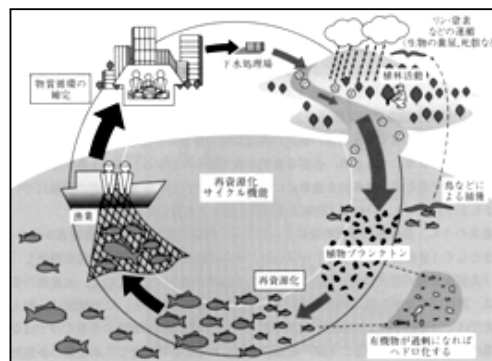


沿岸域における栄養物質の循環(柳)

太く・長く・滑らかな物質循環のイメージ

- ・健全な物質循環系を維持し環境を保全するためには、沿岸域の健全な水産業の営みが重要 (松田 治名誉教授)

(参考文献)  
瀬戸内海研究会編「瀬戸内海を里海に」



水産の多面的機能(物質循環の補完機能)

「水産業・漁村の多面的機能」水産庁

## 21世紀環境立国戦略

(平成19年6月閣議決定)

今後1、2年で重点的に着手すべき戦略の中で里海の創生を位置付け

戦略6「自然の恵みを活かした活力溢れる地域づくり」

③豊かな水辺づくり(「豊饒の里海の創生」等)

「藻場、干潟、サンゴ礁等の保全・再生・創出、閉鎖性海域等の水質汚濁対策、持続的な資源管理など総合的な取組を推進することにより、多様な魚介類等が生息し、人々がその恵沢を将来にわたり享受できる自然の恵み豊かな豊饒の「里海」の創生を図る。

里海について、以下のように整理。

- ・昔から豊かな海の恵みを利用しながら生活してきたいる、**人の暮らしと強いつながりのある地域**
- ・自然生態系と調和しつつ人手を加えることにより、**高い生産性と生物多様性の保全が図られている海**

また、自然海岸の保全、閉鎖性海域などの水質汚濁対策、上流域の森林づくりを進めるなど、人々がその恵沢を将来にわたり享受できる自然の恵み豊かな豊饒の「里海」を再生していくことを位置付けている。

今後5年で総合的・計画的に実施すべき施策の中で、以下のように触れている。

### 1 海洋資源の開発及び利用の推進

#### (1) 水産資源の保存管理

「・・・水産資源の回復を図りつつ、持続可能な利用を推進。その際、**沿岸海域において、自然生態系と調和しつつ人手を加えることによって生物多様性の確保と生物生産性の維持を図り、豊かで美しい海域を創るという「里海」の考え方の具現化を図る。**」

### 2 海洋環境の保全等

「・・・また、沿岸域のうち、生物多様性の確保と高い生産性の維持を図るべき海域では、海洋環境の保全という観点からも、「**里海**」の考え方が重要である。」

## 海域環境の保全という観点からの整理

柳教授の定義と国の戦略や基本計画における里海を、  
海域環境の保全という観点で整理すると・・・

- 自然生態系と調和しつつ人手を加えることにより、高い生産性と生物多様性の保全が図られている、自然の恵み豊かな豊饒の海
- 里海を再生し、人々がその恵沢を将来にわたり享受していくためには、山から海に至る流域全体の環境管理の一体的な実施と食物連鎖を踏まえた海洋生物資源管理が必要
- そのために、自然海岸の保全、閉鎖性海域などの水質汚濁対策、上流域の森林づくり等を総合的に推進していくこととなっている。

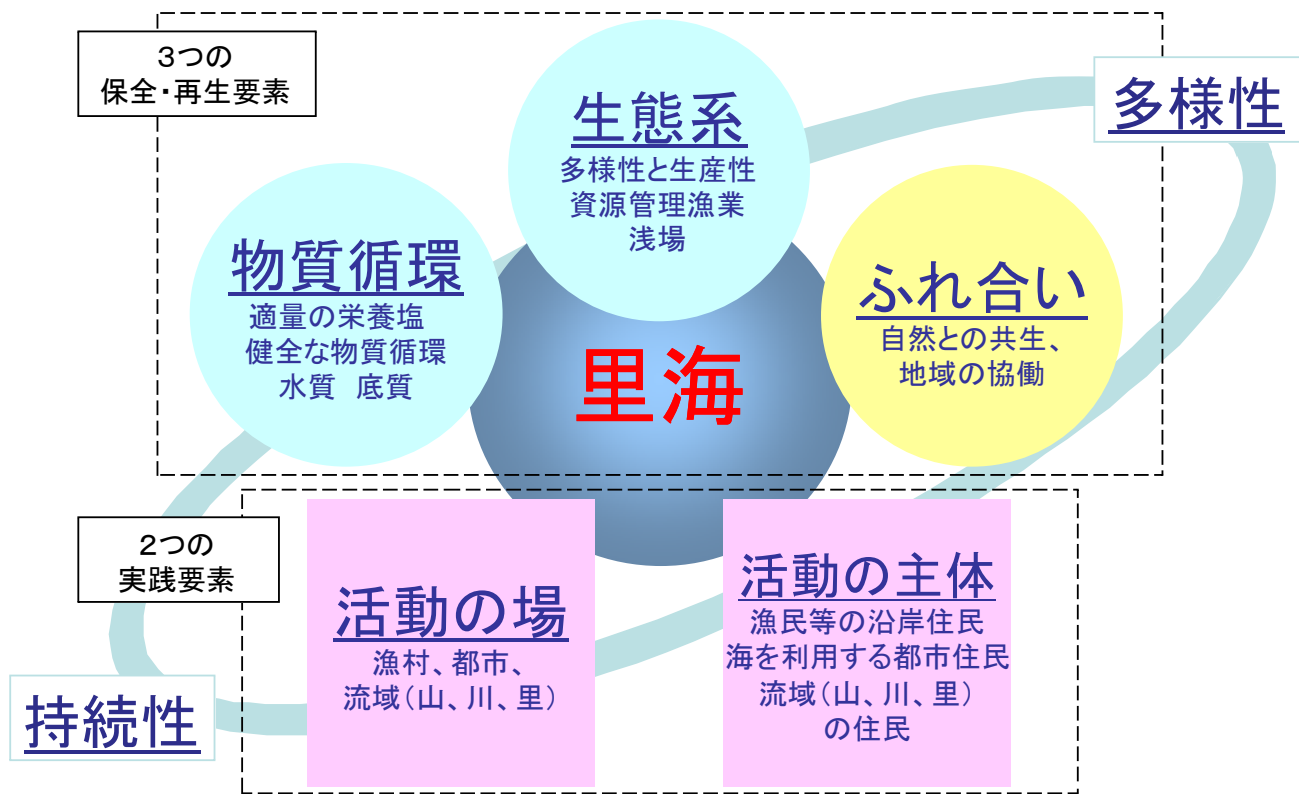
## 里海の構成要素の抽出

以上の各論点整理より、里海のエッセンス(構成要素)は以下のとおり抽出される。

	里海に関する論点	構成要素
保全・再生要素	・山から海に至る流域全体の環境管理の一体的な実施と食物連鎖など物質循環を踏まえた海洋生物資源管理が必要。 ・沿岸域における水産業の健全な営みによって、健全な物質循環系が維持されていること。	物質循環
	・自然生態系と調和しつつ人手を加えることにより、高い生産性と生物多様性の保全が図られている海。 ・多様な魚介類等が生息できる藻場・干潟等の保全・再生・創出が必要。	生態系
	・昔から豊かな海の恵みを利用しながら生活してきている、人の暮らしと強いつながりのある地域。 ・主に漁業を通して伝統文化に根ざし、かつ自然生態系と調和して人々の生活に組み込まれていること。また、新たな文化の形成や情操教育が進むこと。	ふれ合い
実践要素	・里海が存在する場としては、基本は漁村となるが、その上流である山、川、里といった流域の他、都市の近傍でも成立している。	活動の場
	・里海を成立される構成員の中で主体的な参加者としては、基本は漁民になるが、その上流である山、川、里といった流域や都市の住民が参画していることもある。また、ダイビングやフィッシングといったレジャー等で海域を利用する人々が参画することで成立する里海も存在する。	活動の主体
共通要素	・上記の「物質循環」、「生態系」、「ふれ合い」は里海により保全・再生される主要な効果であり、さらに里海という場を成立させる「場」と「主体」によって、里海は構成されている。この5つの構成要素の組合せは、里海によって多様である。	多様性
	・自然生態系と調和しつつ人手を加えることにより、生物多様性の確保と高い生産性が将来にわたり確保されること。 ・人の暮らしと強いつながりを持ち、文化を通して人々の生活に組み込まれること。	持続性

# 里海創生の視点

## 里海創生の視点＝里海の構成要素



# 里海という概念

## (1) 定義

- 柳教授の定義及び前述の論点整理等を基に、以下のとおり定義する。

『人間の手で陸域と沿岸域が一体的・総合的に管理されることにより、物質循環機能が適切に維持され、高い生産性と生物多様性の保全が図られるとともに、人々の暮らしや伝統文化と深く関わり、人と自然が共生する沿岸海域』

## (2) 構成要素

- 里海は、単なる空間概念に留まらず、人々の活動の中で発生する概念。
- 里海は、「物質循環」、「生態系」及び「ふれ合い」という活動により保全・再生される3つの要素と活動を実践する「場」と「主体」という2つの要素により構成される。
- 里海は、5つの構成要素により多様なものであり、海域の特性に応じ柔軟に存在することが可能であり、今後、様々な海域への普及が可能である。

## (3) 閉鎖性海域の現況

- 荒廃の危機に瀕している。

## (4) 創生により期待される効果

- 「物質循環」、「生態系」及び「ふれ合い」の保全・再生により海域環境の保全・再生が期待される。

## (5) その他留意事項

- 里海は、生活習慣等と結びつくことで持続性を持ちうる。
- 里海は、沿岸域の総合的管理の概念として活用できるツールである。

# 里海の類型化 ～活動の「場」と「主体」から～

多様性・持続性		物質循環	生態系	ふれ合い	類型	活動の特徴
地域性						
活動の場	活動の主体 (生活の場)					
流域 (山村)	流域＋漁村	各地域での取り組みにより、 程度は様々			流域 一体型	森・川・里を一体として捉えた 活動 等
都市	都市				都市型	都市直近に位置する藻場等の 浅場の保全や再生活動 等
	事業者 (+都市)				ミテゲ- ション型	都市の開発に伴い失われた環 境の再生活動 等
漁村	— (手を加えない管理)				鎮守の 海型	禁漁区、禁漁期等の設定によ る手を加えない管理 等
	漁村＋ 流域、都市				体験型	都市近郊に位置し、都市住民 による体験活動 等
	漁村				漁村型	漁村に位置し、漁業活動の中 で実施される活動 等